

小麦のシロトビムシ類に対する 農薬の2剤処理による防除効果

病害虫部

1 背景、目的

シロトビムシ類は小麦の出芽時に幼芽や幼根を加害し、出芽不良や生育抑制を引き起こす害虫です。本種に対して防除効果が高い農薬（サンサイド水和剤）の登録が失効して以来、小麦ではその被害による不出芽ほ場が目立つようになり、麦作面積の拡大を推進する中で一つの課題となっています。現在、3剤が本種に対して農薬登録を有するものの、これらのいずれかを処理しても十分な防除効果が得られない事例が見受けられます。

そこで、これら薬剤の防除効果を向上させる使用方法として、2剤処理の効果を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

1) 播種前の小麦種子にキヒゲン R2 フロアブル（乾燥種子重量の2%）の種子塗沫処理を行った後に、バッサ粉剤 30DL（同3%）もしくはアドマイヤー水和剤（同0.15%）の種子粉衣処理を行うと、これら3剤を単用で処理した場合に比べて出芽率が向上して防除効果が上がります（図1）。

2) バッサ粉剤 30DL とアドマイヤー水和剤の2剤を処理した場合では、上記の組み合わせに比べて出芽率が低く、安定した防除効果が得られません（図1）。

3 主要なデータなど

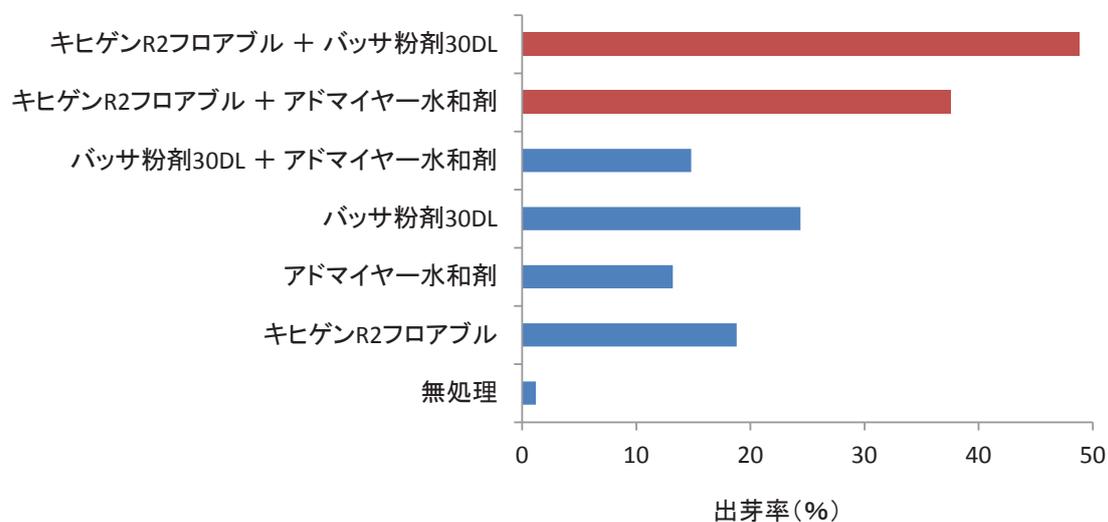


図1 シロトビムシ類の激発圃場における2剤処理による防除効果

注) 平成25年1月8日に播種し、2月15日に調査した。



図2 ヤギシロトビムシ (体長2mm)



図3 シロトビムシ類による被害
(ほ場の手前側が不出芽)